



## 23 馬群像

池田勇八

一点

昭和三年（一九二八）

ブロンズ・鑄造

二九・〇×九六・〇×三八・〇

数々の馬の彫刻作品を残した池田勇八は、犬や豚、山羊などその他の動物彫刻も得意とした。自らの制作活動を回顧した遺稿では、「過去の大半を終日牧場で、偽りのない自然の表情をもつ動物を相手に、そのときどきの興に乗じて、自由に何の束縛もなく、ただ制作三昧に過ごせたことはしあわせでした」（池田勇八 動物彫刻六十年回顧展作品目録「日本橋三越、昭和三十八年」と述べ、牧場に滞在して動物たちを間近に観察しながら、その自然な仕草や時折見せる思慮深い表情を巧みにとらえた制作人生をふり返った。

本作は、昭和三年（一九二八）の大札の折、昭和天皇へ生命保険会社協理理事長弘世助太郎より献上された。三頭の馬が重なり合いながら前後に並んで穏やかに駆ける様子を表す。横に長く安定感のある構図のなかに、凛とした表情を見せつつ軽やかな動きを感じさせる造形である。三頭の馬はおそらく親子で、前の二頭が父馬と母馬、真ん中の母馬にじゃれ合うように伸び上がった後方の馬が子馬であろう。仲睦まじい家族の姿に擬して、新しく迎えた昭和の時代が泰平の世の中になるようにとの想いが込められた作品である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

こまくら  
駒競べ——馬の晴れ姿

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 73

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十八年七月九日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan